

1 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和2年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名： 病院事業庁

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立志摩病院(志摩市阿児町鵜方 1257)
指定管理者の名称等	公益社団法人地域医療振興協会 理事長 吉新通康（東京都千代田区平河町 2-6-3）
指定の期間	平成 24 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・診療等に関する業務 ・利用に係る料金の收受等に関する業務 ・手数料の徴収に関する業務 ・施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務 ・その他志摩病院の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R1	R2	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い疾患に対応できる体制の構築や住民の医療ニーズへの適切な対応など診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。 ・利用に係る料金の收受等を適切に実施した。 ・利用者の利便性を最優先に、売店や食堂等の運営、施設・設備の維持管理及び修繕を適切に実施した。
2 施設の利用状況	C	C			<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病棟の運用や地域医療支援病院としての役割を果たす中で患者の確保を図るとともに、内科系救急では、24時間365日体制での患者受け入れを継続し、志摩地域の救急医療に貢献するなどしたが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり患者数は前年度の実績を下回った。
3 成果目標及びその実績	C	C			<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率は成果目標を達成したが、その他指標では成果目標、前年度実績を下回った。

※「評価の項目」の県の評価： 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>令和2年度においても、幅広い疾患に対応できる体制を維持し、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院診療では、一般病棟に加え、回復期機能である地域包括ケア病床を運用することにより、地域の医療ニーズに的確に対応した。 ・外来診療では、小児科で常勤医師を確保したことで安定した診療体制を構築するとともに、産婦人科で非常勤医師の採用により外来診療及び婦人科健診の拡充を行うなど、診療機能の安定、充実を図った。 ・救急診療では、内科系救急における24時間365日体制の患者受け入れを継続(救急搬送患者数:1,588人)するなど、住民の切実な医療ニーズにも適切に対応した。 ・新型コロナウイルス感染症が拡大する中、関係機関と連携しながら病床の確保や病棟間の入院調整等例年のない困難な病床管理・運用に的確に対応した。 ・施設の利用状況・成果目標については、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、経常収支比率を除く各指標で目標値の達成には至らなかったが、今後、収束後の対応も視野に、指定管理者による的確かつ十分な要因の分析、対策の実施が必要である。
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和2年度分)>

指定管理者の名称:公益社団法人地域医療振興協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 三重県立志摩病院の管理運営事業の実施に関する業務

- ・令和2年度の病院運営は、医師26名(常勤医22名、初期研修医4名)の診療体制でスタートし、業務の効率化を図りながら、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。
- ・入院診療は、2次救急病院として救急患者や紹介患者を受け入れるとともに、回復期機能である地域包括ケア病棟(3・6病棟)を運用した。また、新型コロナウイルス感染症対策として県と連携しながら病床の確保等を行った。
- ・外来診療は、小児科で常勤医師を確保し安定した診療体制を構築した。また、産婦人科で非常勤医師を採用し、外来診療及び婦人科健診を拡充した。そのほか、新型コロナウイルス感染症の拡大(不要不急の外出自粛等)に伴い、外来(救急を含む)患者の受診控えが見受けられた。
- ・救急医療は、内科系で平成28年5月からの24時間365日の患者受入れを継続して実施した。さらに、小児科の常勤医師の確保に伴い、12月から木曜日を除く日勤帯において1歳以上を対象に症例を限定して小児救急の受入れを開始した。
- ・健診事業は、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴い、一時、停止したものの、健診件数は昨年度比増となった。
- ・地域医療支援病院(平成29年10月承認)として、1次医療を担う地域医療機関との患者の紹介・逆紹介の推進、入院加療や救急患者の受入れ、専門外来の診療、医療機器の共同利用、地域の医療関係職員の研修などを実施した。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・建物(一般病棟、管理・検査棟、精神病棟)は、築後約30年が経過し、設備も老朽化が進んでいるため、経年劣化による修繕対応が増えている。令和2年度は、病院事業庁が病棟ナース系統空調機及び熱交換器更新工事や病棟非常用ガスタービン発電機制御盤シーケンサ交換工事を実施し、病院側では手術室系統空調フィルター交換、オートクレープの修繕等を実施した。
- ・医療機器は、病院事業庁が計画的に更新しているが、耐用年数を超えているものも多く、修繕による対応を余儀なくされている。
- ・診療材料、医療消耗品は、SPD(物品管理)委員会において定期的に使用状況を把握しながら定数を管理するとともに、薬品は積極的に後発医薬品へ切り替えるなど経費削減に努めた。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、病院側で医療機器や備品等の購入等を行った。

③ 施策への配慮に関する業務

- ・へき地医療支援機構(事務局)として代診医の派遣調整を実施した。また、志摩市間崎島への巡回診療を月2回(内科系・外科系)実施し、島民に受診の機会を提供した。
- ・「女性が働きやすい医療機関(平成29年3月県認証、令和2年3月再認証)」として、女性の就労環境等の改善に努めた。
- ・省エネルギー対策(こまめな消灯や照明の間引き、電球の一部LED化など)を実施した。
- ・思いやり駐車区画を正面玄関付近と立体駐車場に設け、適正な利用について啓発を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・関係法令に基づいて規程を整備、個人情報管理責任者を配置し適切な管理を実施した。

⑤ その他の業務

- ・地域連携センターでは、地域の医師会、介護・福祉施設、関係団体等と顔の見える関係を築くとともに、地域の中核病院として、毎年度専門職員対象の研修会(3回)や、医療、介護、消防、行政、民生委員など幅広い関係者が参加する地域まるごとケア交流会(2回)を実施してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が拡大する中、大幅に事業を減らさざるを得ない状況となった。

(2)施設の利用状況

	R1	R2
1日平均入院患者数	194.2人	172.7人
1日平均外来患者数	296.4人	254.4人
1か月平均救急患者数	386.1人	249.5人

2 利用料金の収入の実績

	R1	R2
入院収益	2,260,702千円	2,052,087千円
外来収益	860,919千円	794,653千円
その他医業収益	68,572千円	71,576千円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R1	R2		R1	R2
指定管理料	559,296,000	581,124,000	事業費	3,973,912,667	4,013,648,906
利用料金収入	3,190,192,304	2,918,316,410	管理費	64,139,000	58,633,000
その他の収入	61,287,145	1,267,299,761	その他の支出	8,520,375	7,109,638
合計 (a)	3,810,775,449	4,766,740,171	合計 (b)	4,046,572,042	4,079,391,544
収支差額 (a) - (b)	△235,796,593	687,348,627			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	1日平均入院患者数 300人/日 1日平均外来患者数 600人/日 1か月平均救急患者数 1,000人/月 経常収支比率 100% 利用者満足度 85%
成果目標に対する実績	1日平均入院患者数 172.7人/日 (R元実績:194.2人/日) 1日平均外来患者数 254.4人/日 (R元実績:296.4人/日) 1か月平均救急患者数 249.5人/月 (R元実績:386.1人/月) 経常収支比率 116.8% (R元実績:94.2%) 利用者満足度 71.0% (R元実績:75.2%)
今後の取組方針	志摩地域の中核病院として、地域の方々に安全かつ良質な医療が提供できるよう、引き続き諸課題の改善に努めるとともに、伊勢志摩地域医療構想で示された当院の役割に沿って、他施設と連携しながら地域包括ケアシステム構築に寄与していく。 また、内科系救急の24時間365日の患者受入れを継続して行うとともに、地域医療支援病院として地域の医療機関等と連携し、患者の紹介・逆紹介の推進や専門職を対象とした研修、医療機器の共同利用等の充実を図る。さらに医師確保に努めるとともに総合診療医と専門医の連携による医療の充実を図り、収支改善に取り組んでいく。

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い疾患に対応できる体制の構築(総合診療医、内科医等の専門医や医療技術者等を確保)や住民の医療ニーズへの適切な対応(地域包括ケア病棟の運用、通所リハビリテーション事業、志摩市間崎島への巡回診療の実施等)など、診療機能の回復・充実及び地域医療への貢献に努めた。 利用に係る料金収受等を適切に処理した。 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務を適切に実施した。
2 施設の利用状況	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病棟の運用(長期間入院加療ができる病床として住民の医療ニーズに対応)や地域医療支援病院としての活動(病診連携の推進、地域の医療技術者への研修実施、医療機器の共同利用等の推進)など、入院・外来患者の確保に向けた取組を実施した。 内科系救急では、平成28年5月から24時間365日体制での患者受入れを継続するなど、志摩地域の救急医療に貢献した。
3 成果目標及びその実績	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による入院・外来患者数の減少等により、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、1か月平均救急患者数、利用者満足度において成果目標は達成できず、前年度の実績を下回った。 経常収支比率は、入院収益、外来収益ともに減であったが、新型コロナウイルス感染症にかかる補助金等の受入により目標を達成した。

- ※評価の項目「1」の評価：
- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」→ 業務計画を順調に実施している。
 - 「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
 - 「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- ※評価の項目「2」、「3」の評価：
- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」→ 当初の目標を達成している。
 - 「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
 - 「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>令和2年度(指定管理者制度への移行9年目)も、業務の効率化を図りながら診療機能の維持・充実を図り、地域医療への貢献に努めた。</p> <p>診療体制については、引き続き、医師の確保(主に協会等の研修プログラムによる後期研修医の確保)に努めた。</p> <p>入院医療は、急性期病床(一般病棟)と回復期機能である地域包括ケア病床(72床)を運用することにより、地域の医療ニーズに的確に対応し、63,041人の患者を受け入れた。</p> <p>救急診療は、内科系救急において24時間365日体制での患者受入れを継続し、地域住民に受診の機会を提供した。さらに、ドクターヘリとの連携による重症患者の搬送に際し、ランデブーポイントとしての役割を担った。</p> <p>外来診療は、小児科で常勤医師を確保し、安定した診療体制を構築した。また、産婦人科で非常勤医師を採用し、外来診療及び婦人科健診を拡充した。</p> <p>収支状況については、入院収益は、急性期病床、地域包括ケア病床及び精神病床の患者数が減少したため、前年度より減少した。外来収益についても、一般科及び精神科の患者数が減少したため、前年度より減少した。また、健診事業や通所リハビリテーション事業の収益は増加した。</p> <p>施設・設備の老朽化等への対応や高額な医療機器の更新については、県と連携を密にし、計画的な導入に努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、県と連携しながら病床の確保や入院調整を行うなど、例年と異なる困難な病床管理・運用に的確に対応した。</p>
--------	--

